



2017 (平成29) 年5月30日 (火) 発行

〔発行所〕 応用生態工学会事務局 〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5 麹町ロイヤルビル 405 号室
TEL : 03-5216-8401 FAX : 03-5216-8520 E-mail : eces-manager@ecesj.com HP : <https://www.ecesj.com/>

〔発行者〕 応用生態工学会 (編集責任者: 幹事長 藤田乾一, 事務局長 青江 淳)

1	はじめに	1
2	次期役員候補を募集します	2
3	応用生態工学会第21回大会/ELR2017名古屋開催案内	7
4	会誌投稿規程が改訂されました	10
5	行事開催案内	
5.1	＜共催＞応用生態工学会長野・河川生態学術研究会共同シンポジウム開催案内	11
6	行事開催報告	
6.1	第3回北信越技術研究会開催報告	12
7	理事会・幹事会報告	
7.1	第86回理事会報告	15
8	2017年度行事の予定	16
9	事務局より	17

1 はじめに

今年度最初のニュースレターとなります。次期役員候補募集のお知らせ、学会第21回大会/ELR2017名古屋の開催案内、各地の活動状況など、学会の動きをお伝えします。

次期役員候補募集のお知らせを掲載しました

今年度は役員改選年にあたります。次期役員募集・推薦委員会(委員長:辻本会長、委員:近藤元会長、谷田前会長)では、本年9月の第21回総会での次期役員選出に向けて、役員候補(会長候補、副会長候補、理事候補、監事候補)の募集を行います。

役員候補届出の受付期間は、本年6月1日から6月30日までです(郵送受付のみ)。

学会第21回大会/ELR2017名古屋の開催案内を掲載しました

今年の応用生態工学会第21回大会は、日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会の3学会合同大会(ELR2017名古屋)として、本年9月22日(金)~25日(月)に名古屋大学東山キャンパスにおいて開催します。

今回のテーマはグリーンインフラストラクチャーです。大会では、研究発表、研究集会(応用生態工学会大会での自由集會に相当)、企業展示、公開シンポジウム、国際シンポジウム、エクスカージョンが行われます。

研究発表、研究集会、企業展示の申込みは、いずれも7月7日(金)が締切りです。

2 次期(第11期)役員候補を募集します

次期役員募集・推薦委員会

委員長：辻本哲郎会長

委員：近藤徹元会長，谷田一三前会長

今年度は役員改選年にあたります。本委員会は、本年2月23日開催の第86回理事会で設置されたことを受け、4月13日に第1回委員会を開催し、以下の要領で次期役員候補の募集を行うことといたしました。

会員の皆様におかれましては、以下の要領に従い、候補者の届出をしていただくようお願いいたします。

なお、本委員会の規程(次期役員募集・推薦委員会規程)は、別添のとおりです。

【候補者届出を受け付ける役員】

会長(1名)、副会長(3名以内)、理事(15名以内)、監事(2名)

※役員選出に関連する学会規約第10, 11, 12, 14, 15条の規定をご確認ください。

なお、幹事長及び幹事については、学会規約第13条第1項の規定により理事会において候補が推薦されます。

【届出の方法】

- ・自薦・他薦を問いません。
- ・会長候補及び副会長候補については、それぞれの候補者名に正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて届けてください。
- ・理事の候補者は、正会員であることが必要です。
- ・届出は、学会事務局において**郵送のみ**にて受け付けます。

応用生態工学会事務局 事務局長：青江 淳

〒102-0083 東京都千代田区麹町4-7-5 麹町ロイヤルビル405号室

TEL. 03-5216-8401 FAX. 03-5216-8520

【受付期間】

2017年6月1日から6月30日までの1ヶ月間

【届出の様式】

- ・別紙の所定様式を使用してください。
- ・別紙の所定様式は、学会ホームページからWord版、pdf版をダウンロードすることができます。

【今後の役員選出の流れ】

(1) 第2回次期役員募集・推薦委員会の開催

- ・候補者募集・受付期間の経過後(本年7月上旬)に第2回委員会を開催し、候補者や推薦人名簿の確認などを行います。
- ・また、届出のあった候補者数を勘案して、学会規約第10条に定められている役員の人数の範囲内で候補者の推薦を行います。

(2) 候補者の周知

- ・本年8月上旬に、ニュースレター、ホームページ、会員メーリングリストにより第21回総会の開催案内とともに、次期役員候補者を周知します。

(3) 総会での役員選出

- ・会長、副会長、理事及び監事は、本年9月下旬に開催予定の第21回総会において投票により選出されます。
- ・なお、やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員は、あらかじめ通知された次期役員候補者について投票し、または他の正会員を代理人として表決を委任することができます。

役員候補届出書

平成 29 年 6 月 日

応 用 生 態 工 学 会

次期役員募集・推薦委員会委員長 辻本 哲郎 殿

届出者 所 属 :

氏 名 :

印

連絡先 :

応用生態工学会の第11期（ 会長・副会長・理事・監事 ）候補として、下記のとおり届出いたします。

記

1. 候補者（ 会長・副会長・理事・監事 — いずれかに○ ）

(1) 氏名 :

(2) 所属・役職 :

(3) 専門分野 :

2. 推薦人名簿（会長候補及び副会長候補の届出には、正会員5名以上の推薦が必要です）

No.	氏 名	会員番号（正会員）
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

（推薦人が10名を超える場合は別紙に記載ください）

【別添】

次期役員募集・推薦委員会 規程

[1] 目的

本委員会は、学会規約に基づく次期役員の選出を円滑に行うために設置し、立候補者の募集・受付、候補者の推薦、周知など、次期役員候補の推薦までの手続きを調整する。

[2] 設置と構成

本委員会は、役員改選年ごとに設置し、当該年の総会終了後に解散する。委員長（1名）及び委員（2名以上）は、理事会が指名する会員で構成する。

[3] 立候補者の募集・受付

本委員会が立候補を募る役員は、会長、副会長、理事、監事とする。なお、立候補者の募集・受付の基本的な要領は以下のとおりとし、募集案内や日程等を会員に周知するものとする。

- ・役員候補者は正会員とする。ただし、学会規約第11条及び第14条により、会長、副会長及び監事はこの限りではない。
- ・候補者は、自薦・他薦を問わない。
- ・会長及び副会長については、それぞれの候補者名に正会員5名以上の推薦人の名簿を添えて学会事務局に届け出る。
- ・候補者の募集・受付期間は、役員改選年の総会の4ヶ月前～3ヶ月前を基本とする。

[4] 候補者の推薦

本委員会は、候補者の募集期間中に候補者が定員に満たない場合などは、候補者の募集・受付期間経過後に候補者の推薦を行う。

[5] 周知・投票に関する調整

本委員会は、学会事務局が実施する以下の活動の調整を行う。

- ・学会事務局は、立候補者の募集・受付の要領や推薦人名簿の様式等の必要な書類の周知を、学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって行う。
- ・学会事務局は、立候補者もしくは推薦された次期役員候補者を、総会までに学会ニュースレター及び学会のホームページへの掲載等によって会員に周知する。
- ・学会事務局は、総会において次期役員選出のための投票結果をとりまとめる。なお、やむを得ない理由のため総会に出席できない正会員については、あらかじめ通知された次期役員候補者について投票し、または他の正会員を代理人として評決を委任することができる。

[6] 総会における報告

本委員会は、学会規約第11条、第12条、第14条、及び第15条に基づく総会での役員の選出が円滑に行われるよう、総会において以下に示す報告等を行う。

- ・次期役員候補者の募集・推薦等の経過の報告

[7] 付則

本規程は、平成21年5月11日より施行する。

本規程は、平成21年8月27日改正し、施行する。

本規程は、平成27年4月1日改正し、施行する。

3 応用生態工学会第21回大会／ELR2017名古屋 開催案内

日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会 3学会合同大会 「ELR2017 名古屋」のご案内

本年の応用生態工学会第21回大会は、日本緑化工学会・日本景観生態学会・応用生態工学会の3学会合同大会（ELR2017 名古屋）として開催します。

この3学会は、ともに生態分野の応用的研究を行う学術団体であり、研究者間の交流、研究成果の公表体制の強化などをねらいとして、英文誌LEE（Landscape and Ecological Engineering）の発行など協力的活動を行ってまいりました。2008年、2012年には、さらなる試みとして、3学会の大会を合同で開催するに至りました。今回は、その3学会合同大会の3回目の開催となります。

今回のテーマはグリーンインフラストラクチャーです。地球規模での環境や資源をめぐる問題、これまでにない災害の甚大化などへの対応には、自然の仕組みを活かした国土や地域の管理が必要だと考えられています。人類による生態系への影響がますます強くなる時代に、生態系さらには社会の持続性はランドスケープをどう維持管理するかということに大きくかかわります。公開シンポジウム並びに国際シンポジウムでこの課題に取り組むとともに、会員の皆さんからの研究発表や革新的な議論を期待しています。

なお、韓国、台湾の学会との国際コンソーシアムICLEE（英文誌LEEの刊行母体）の第8回大会を同時開催します。

1. 大会概要

(1) 日程

2017年9月22日（金）～25日（月）

9月22日（金）：各学会委員会，応用生態工学会幹事会・理事会，研究集会

9月23日（土）：研究発表（口頭発表，ポスター発表(掲示・コアタイム)），企業展示，研究集会，国際シンポジウム，ICLEE第8回大会，懇親会

9月24日（日）：研究発表（口頭発表，ポスター発表(掲示のみ)），企業展示，各学会総会，公開シンポジウム

9月25日（月）：エクスカージョン

※ エクスカージョンについては、後日ご案内をいたします。

(2) 会場

名古屋大学東山キャンパス（名古屋市千種区不老町）

※交通アクセスについては、名古屋大学ホームページをご覧ください。

<http://www.nagoya-u.ac.jp/access/index.html>

2. 参加・発表申込み

参加申込みと発表申込みは、下記の大会ホームページ内の「【3学会会員】参加申込・発表申込フォーム」または「【非会員】参加申込フォーム」にて登録してください。

大会ホームページ <https://sites.google.com/view/elr2017/>

なお、所属会社等でのインターネットのアクセス制限により、申込フォームが表示されない場合があります。申込フォームが表示されない場合には、大会実行委員会あてにメールにて問い合わせを申し込んでいただくか、あるいは、アクセス制限のないパソコン環境を利用して申し込んでくださるよう、お願いします。

ELR2017 名古屋実行委員会 E-mail : elr2017office@gmail.com

(1) 参加申込み

大会参加費は、ELR 参加の3学会の正会員・賛助会員 5,000 円（当日参加 6,000 円）、一般（非会員）8,000 円、学生（非会員同額）2,000 円です。参加者にはプログラムが配布されます。

懇親会参加費は、一般（非会員同額）5,000 円、学生（非会員同額）3,000 円です。

早期登録申込み及び振込締切りは8月31日（木）です。

大会参加の申込みをいただいた方には、折り返し、振込等の案内を差し上げますので、それに従って大会参加費の振り込みをお願いします。

※エクスクーション費用は未確定です。支払いは後日となります。

※海外の ICLEE 参加学会の会員も、日本円で 5,000 円（当日参加 6,000 円）を支払うことによって参加・発表できます。懇親会費は別途お支払いください。早期登録申込み及び振込締切りは8月31日（木）です。

※日本緑化工学会会員以外の方で日本緑化工学会誌大会特集号（第43巻1号）の入手を希望される方は、当日、会場受付でご購入いただけます（2,000 円/1冊。複数部数の購入も可能です。）。

(2) 発表申込み

発表希望者は、所属学会にかかわらず、大会ホームページ内の「【3学会会員】参加申込・発表申込フォーム」にて、参加申込みと合わせて発表申込みを入力してください。

口頭発表、ポスター発表とも発表申込みの締切りは7月7日（金）です。発表申込み後、要旨原稿を7月21日（金）までに提出していただきます。原稿様式、提出方法は後日連絡いたします。A4用紙で1ページを予定しています。要旨はELR2017名古屋の要旨集に掲載されます。

当日のプログラムは、所属学会にかかわらず、3学会すべての発表から内容によって振り分けたプログラムを作成します。発表に査読はなく、参加・発表申込みと要旨の提出により発表ができます。発表形式には口頭発表とポスター発表があり、選択できます。ポスター発表にはポスター賞が設けられる予定です。

※発表者は、ELR 参加の3学会会員（正会員、学生会員、賛助会員に所属する個人）に限ります。連名者には非会員を含んでも構いません。

※応用生態工学会会員の発表については、大会終了後、要旨を応用生態工学会ホームページに掲載します。

※発表申込み件数によっては、口頭発表、ポスター発表の選択希望に添えない場合もあります。

3. 研究集会

研究集会は、応用生態工学会大会での自由集会に相当します。

研究集会は、大会ホームページ内の「研究集会申し込みフォーム」にて、7月7日（金）までに申し込んでください。申込者の氏名・所属・連絡先住所・電話番号・E-mail アドレス・所属学会のほか、集会名、内容（300～400字程度）、参加予定人数の入力をお願いします。

なお、所属会社等でのインターネットのアクセス制限により、申し込みフォームが表示されない場合があります。申し込みフォームが表示されない場合には、大会実行委員会あてにメールにて問い合わせを申し込んでいただくか、あるいは、アクセス制限のないパソコン環境を利用して申し込んでくださるよう、お願いします。

4. 企業展示

工法、自然再生技術、分析・調査器具、図書など、技術や商品の展示を行うものです。

団体名、担当者氏名、連絡先住所、電話番号、FAX 番号、E-mail アドレス、希望展示面積（単位数）、簡単な出展内容をご連絡ください。お申込み受付後、展示面積と方法に関する打合せをいたします。

1件の展示面積は5～10 m²を標準面積単位として予定しています。テーブル、椅子、パネルなどの準備は大会事務局で行います。他に必要なものは各自ご準備ください。電気使用が必要な場合は、申込み時にご連絡ください。

出展費用は、1標準面積あたり10,000円（ただし、応用生態工学会の賛助会員は無料、日本緑化工学会の賛助会員及び日本景観生態学会の団体会員は5,000円）です。

企業展示は7月7日（金）までに、メールで大会実行委員会まで申し込んでください。

●申込先：ELR2017名古屋実行委員会 E-mail：elr2017office@gmail.com

5. 国際コンソーシアム ICLEE 第8回大会での発表

LEE購読者は同時開催のICLEE会第8回大会での発表を選択することも可能です。

所属学会、氏名、演題を記入して、7月7日（金）までに、メールで申し込んでください。発表は英語に限ります。ICLEE大会とELR2017名古屋の両方での発表はできません。発表者には7月21日（金）までに講演要旨を提出していただきます。要旨の書式は後日お知らせします。

●申込先：ELR2017名古屋実行委員会 E-mail：elr2017office@gmail.com

6. 公開シンポジウム

3学会合同での公開シンポジウムを開催します。内容の詳細は大会実行委員会にて企画中です。詳細が決まりましたらホームページなどでご案内いたします。

テーマ：自然の仕組みを暮らしに賢く生かす—グリーンインフラへの招待

日時：2017年9月24日（日） 14：30～17：00

会場：名古屋大学豊田講堂

この公開シンポジウムには会員外の一般の方も参加できます（無料）。

7. 国際シンポジウム

海外の研究者をお招きして、国際シンポジウムを開催します。

テーマ：Landscape and Green Infrastructure, a key to sustainability

日時：2017年9月23日（土） 15：45～17：45

会場：名古屋大学坂田・平田ホール

・都市におけるグリーンインフラと生態系サービス ジャック・アハーン（マサチューセッツ大学教授）

・都市におけるランドスケープの機能 エリック・アンダーソン（ストックホルム・レジリエンスセンター准教授）

・都市の生態学 クリステン・パリス（メルボルン大学准教授）

この国際シンポジウムには会員外の一般の方も参加できます（無料）。

8. 問い合わせ

ELR2017名古屋実行委員会

E-mail：elr2017office@gmail.com

電話：052-789-4887（名古屋大学 夏原研究室）

9. その他

今後の新しい情報については、内容が決まり次第、随時、応用生態工学会ホームページに大会ホームページと同内容を掲載していくほか、次号のニュースレター（本年8月上旬発行予定）にてご案内いたします。

4 会誌投稿規程が改訂されました

会誌「応用生態工学」刊行関係の規程類としては、会誌刊行規程、会誌投稿規程、会誌校閲規程、会誌編集委員会内規の4つの規程があります。

このうち、会誌投稿規程の改訂について、第86回理事会（本年2月23日開催）において会誌編集委員会からの提案どおり承認され、同日付けで改訂されました。

改訂の内容は、以下のとおり、①原稿に行番号を付すことを記載したこと、②ウェブサイトの記載を引用する場合における引用文献の書き方を具体的に示したことの2点です。

なお、会誌刊行関係の規程類については、学会ホームページに掲載しています。

①原稿の行番号についての記載

（会誌投稿規程の抜粋。下線部が改訂箇所。）

原稿の用紙と書き方

原稿は、ワードプロセッサを用いて、A4版の用紙に横書きとし、用紙の上端は3cm以上、左右両端ならびに下端は2cm以上あげること。英語の場合には12ポイントのフォントを使用し、ダブルスペースの行間で印字すること。日本語の場合には12ポイントのフォントを使用し、1行25文字、1ページ25行を目安とする。表題ページとAbstractページを除く本文・摘要(日本語)・引用文献には、通しページ番号を下端中央に付 ~~す~~し、行番号を付けること。原稿のおよそ3枚半が、印刷時の1ページ(図表の入らない場合)に相当する。

②ウェブサイトの引用における引用文献の書き方

（会誌投稿規程の抜粋）

①「本文の構成と書き方」に以下を付け加える

ウェブサイトの記述を引用する際は、当該資料・ページが逐次更新される場合及び発行年が不明な場合は引用文献とせず、本文中で発行者、URL及び確認日を記載すること。発行者が不明の場合は、原則として引用しない。その他の場合は通常の引用文献と同様に扱う。

②「引用例」に以下を付け加える

……伊豆沼・内沼の賢明な利用や環境教育、環境活動の充実(伊豆沼自然再生協議会
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sizenhogo/04-1kyougikai.html>, 2016年11月22日確認)

③「引用文献」に以下を付け加える

ウェブサイトの場合：発行者名(年号)資料・ページ表題(URL, 確認日)。

④「引用文献例」に以下を付け加える

国土交通省河川局(2006)多自然川づくり基本指針(http://www.mlit.go.jp/river/press_blog/past_press/press/200607_12/061013/s02.pdf, 2016年11月22日確認)。

5 行事開催案内

5.1 <共催>応用生態工学会長野・河川生態学術研究会共同シンポジウム 開催案内

応用生態工学会長野

(1) 趣旨

応用生態工学会長野では、「上下流の連続性を考える」を活動のテーマに据え、これまでに長野県内の各河川で行われている多自然川づくりの実例の現地見学会を開催しました。

今回は、日本一の大河である信濃川の上流に位置する千曲川をテーマに、『河川生態学術研究会 千曲川研究グループ』と共同で開催することとなりました。千曲川研究グループの成果の一部と水辺環境の保全や復元への取り組みについて発表し、今後の千曲川における環境保全や自然と人との共生のあり方について理解を深めるため、シンポジウムを開催いたします。皆さまのご参加をお待ちしております。

(2) 開催内容

日 時：平成 29 年 6 月 10 日（土）13：00～17：10（17：30～19：30 意見交換会）

場 所：信州大学繊維学部 総合研究棟 7 階（長野県上田市）

■スケジュール

13:00 開会

13:05～14:35 一般講演

- 1) 千曲川研究グループの研究概要 平林公男（信州大学繊維学部）
【千曲川研究グループ代表】
- 2) 千曲川の瀬を使う鳥、淵を使う鳥 笠原里恵（弘前大学農学生命科学部）
- 3) 千曲川中流域における魚類群集のエサ資源利用パターン 中野 繭（信州大学理学部）

14:35～14:50 休 憩

14:50～16:40 一般講演

- 4) 千曲川の流域スケールでみる水生昆虫類 東城幸治（信州大学理学部）
ー移動分散のスケールと方向性、そして本流・支流の関係性についてー
- 5) 千曲川中流域における流下有機物量とその起源の変動 戸田任重（信州大学理学部）
- 6) 瀬淵ユニットにおける流況に関する現地観測と物質輸送シミュレーションの試み 豊田政史（信州大学工学部）
- 7) 千曲川中流域における自然再生への取り組みについて 梅澤亮友（国土交通省千曲川河川事務所）

16:40～17:10 総合討論

17:30～19:30 意見交換会（会場：生協食堂（マルベリーホール内））

■参加費

シンポジウム：無料

意見交換会：3,000 円

■申し込み方法

下記事項を明記のうえ、E-mail または FAX でお送りください（6 月 5 日締切り）。

E-mail：motoki@eac-net.co.jp FAX：0263-87-2514

- ・氏名、所属
- ・連絡先（電話・E-mail）
- ・参加内容（シンポジウム・意見交換会）

■お問い合わせ先

応用生態工学会長野事務局（(株)環境アセスメントセンター北信越支社内） 担当：元木・柳生
TEL：0263-87-2504 FAX：0263-87-2514

6 行事開催報告

6.1 第3回北信越技術研究会 開催報告

応用生態工学会富山 林 達夫 (大日本コンサルタント株式会社)

(1) 概要

平成 29 年 4 月 9 日 (日)、好天に恵まれる中、第 3 回北信越技術研究会を「神通川自然再生事業」実施箇所で開催しました。応用生態工学会では、平成 25 年 1 月 26 日に第 1 回応用生態北信越技術研究会を、平成 27 年 3 月 21 日に第 2 回応用生態北信越技術研究会を開催いたしました。北陸で話題の多いサクラマスについて、国土交通省富山河川国道事務所のご協力のもと、「神通川サクラマス自然再生事業」施工中の現場見学及び室内討論を行いました。開催後、多くの参加者からお礼のメールをいただき、いずれも再度見学し、討論したいとの内容でした。

そこで施工後 4 年が経過した本年、現地の状況を再度自分の目で確認し、モニタリングの状況等の説明を受け全員で討論するため、第 3 回応用生態北信越技術研究会を企画しました。

今回の参加者は、研究会 31 名、交流会 24 名でした。

(2) 現地調査

当日は、13時に神通川右岸17.4k (成子大橋付近) に集合後、富山河川国道事務所 宮下優地域防災調整官より工事概要等の説明を受けました。

最初にサクラマスの越夏場所として自然再生を図った神通川本川右岸17.6k付近の神通地先 (平成24年度施工) の現地調査を行いました。越夏場所としての重要な深い淵の再生 (水深 2m 以上、流速 0.5m/s 以下)、夏期の水溫環境の再生 (25℃ 以下)、水中カバーの再生のため、ブロックによる減勢工、木工沈床やブロックによる魚巢工等が施工されました。現在モニタリング調査を行い、目標の環境条件の状況等の確認が行われています。

次に越冬場所として整備した神通川本川左岸18.0k付近・西派川の成子地先 (平成24年度～平成28年度施工) の現地調査を行いました。越冬場所としての重要な要因は、流速 0.5m/s 以下の緩やかな流れと産卵床となる礫の存在に加え、倒木等の陸上カバーの存在が重要とのことで、越冬用人工水路の造成及びカバーを含めた西派川の利活用が図られていました。

第 2 回研究会では東側の人工水路のみでしたが、今回は西側においても木工沈床による魚巢工や河床礫による人工産卵床、ワンド部での捨石工等による人工水路が施工されており、施工直後であったため草木が未だ生い茂っておらず、その構造や流況の細部をより明確に把握することができました。



越夏場所 (神通地先) での説明



越冬場所 (成子地先) の現地調査

(3) 室内討論

現地調査の後、富山県民会館へ移動し、室内討論を行いました。

討論開始にあたり、実行委員長 玉井信行東大名誉教授より本研究会の主旨説明があり、富山河川国道事務所 福濱方哉事務所長からは歓迎のご挨拶がありました。その後、2名の方々から話題提供をいただき、現地踏査の結果と合わせ、活発な室内討論が実施されました。

i) 設計施工概要・モニタリング説明 (説明者 富山河川国道事務所地域防災調整官 宮下 優)

サクラマス越夏・越冬場所それぞれの整備目標・整備状況及びモニタリング結果について説明を受けました。整備目標・状況は、特徴・環境条件の整理、必要条件の抽出、そして条件に対応した事業のメニューの設定を、続いて平成24年度から平成28年度までの施工について、写真や設計図により説明を受けました。



室内討論

モニタリング調査については、越夏・越冬場所・流域全体の調査項目・方法・回数・時期などの概要説明のあと、平成28年度調査を中心に詳細な結果報告がありました。越夏場所については、整備した4箇所のうち2箇所でサクラマス成魚1~2個体が確認され、すべての箇所でアユ・コイ・ハゼ等を多数確認しています。全箇所において流速は0.5m/s以下、水深は2.0m以上の箇所があり、特にサクラマス成魚が確認された箇所は、水深3.5~4.5mの深い淵でした。連続水深調査では、最下流の塚原地先以外は最深部で3m以上を維持、水温は最上流の西神通以外は25℃超過を確認したが、日数・時間数ともに僅かでした。

越冬場所では、整備した3箇所すべてでサクラマス幼魚を確認したが、成魚は確認されていません。水深は0.5m以下が多く、やや浅い。流速は、見学した成子地先は流量が多いため0.7m/s以上の箇所が多いが、他の箇所は0.7m/s以下でした。

流域全体については、本川上流の整備した2箇所の越冬箇所と井田川、熊野川全川において産卵床調査を行い、本川ではサケの産卵床が多数確認されたがサクラマスの産卵床は確認できず、井田川15地点、熊野川4地点で確認した。産卵床の水深は0.15~0.58m、流速は0.23~1.40m/sでした。

ii) 神通川で漁獲されるサクラマスの魚体の小型化

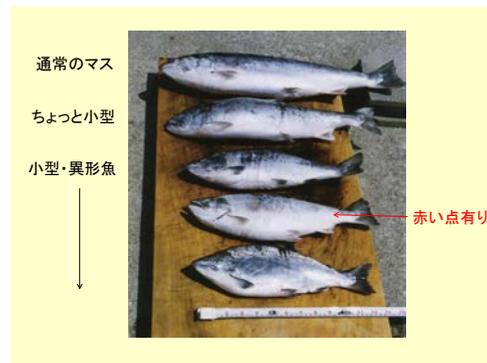
(話題提供者 富山県水産研究所所長 田子泰彦)

神通川のマスが小型化している実態と、その要因、検証についての研究結果について講演を受けました。サクラマスが小型化すると、全体の漁獲量の減少、kg当たりの単価が低下します。

サクラマス体重の平均値は、1985年から1991年の間は3.0kg前後であったが、1999年から2002年には2.3kg前後に変化しており、1985年~2002年の間に体重、モード、頻度分布に小型化の傾向が認められました。

小型化の大きな要因には、河川環境の悪化(低水護岸建設などによる淵の減少)、捕獲による大型魚の選択的な淘汰および近縁種のサツキマスとの交雑(昭和40年代からのアマゴの放流)があると考えられます。

2000~2002年の神通川遡上サクラマス150個体の遺伝子分析の結果、22%の個体が交雑魚であることが判明し、サツキマスとの交雑が起こっていることが遺伝的に明らかになりました(富山大学との共同研究)。



(4) おわりに

富山名産「ますの寿し」の原材料でもあるサクラマスは、古くは江戸時代から地元産が使われてきましたが、河川環境の変化とともに激減し、現在では絶滅の危機に瀕しています。また、現存するサクラマスの小型化も新たな課題となっており、サクラマスの生息環境を再生することで、アユをはじめとする他の魚類の生息環境も向上し、多様な河川環境の再生が可能となるほか、自然再生事業の現場は、河川環境学習の場としての機能も期待されます。

最後になりましたが、開催にあたり、国土交通省富山河川国道事務所の関係者の皆様に多大なご支援、ご指導を賜りました。ここに深く感謝申し上げます。

今回の現地調査は、整備した施設をより分かりやすく把握してもらうため、事務所の方の提案により現地の施工が完了した4月の最初に実施しました。次回も同じ場所で研究会を開催し、環境の変化を実感できればと考えております。技術研究会にご参加いただいた皆様及びスタッフの皆様、どうもありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。

7 理事会・幹事会報告

7.1 第86回理事会報告

第86回理事会が本年2月23日(木)に東京都千代田区麹町の弘済会館において開催された。

なお、これに先立って、昨年12月5日(月)に第71回幹事会が学会事務局において開催され、第86回理事会に付議する事項について審議が行われた。

第86回理事会では、次の5件の審議事項について審議が行われた。

①事務局次長の選任報告／事務局長の選任

- ・小川鶴蔵事務局長が本年3月31日をもって退任されることに伴い、本年4月1日付けで後任の事務局長として青江 淳氏(元水資源機構理事)を選任することが承認された。

②次期役員募集・推薦委員会の委員指名

- ・次期の会長・副会長・理事・監事の選出にあたって、学会規約細則第5条の規定に基づき次期役員募集・推薦委員会を設置することとし、その委員長と委員について、次期役員募集・推薦委員会規程[2]の規定に基づいて、次のとおり指名することが確認された。

委員長：辻本会長、委員：近藤元会長、谷田前会長

③本年の第21回大会／ELR2017名古屋の企画

- ・公開シンポジウム企画案がELR2017実行委員会から提示されており、これについて審議を行い、応用生態工学会としての対応を次のとおり確認した。
 - i) 公開シンポジウムの企画案については了解する。併せて、名古屋大学環境科学研究科とグリーンインフラ研究会との共催とすることについても了解する。
 - ii) 公開シンポジウムの成果を日本景観生態学会の学会誌「景観生態学」特集号にて公表する案については、3学会の会員が情報を得られるような方法(例えば、各学会HPにてPDF版での公表など)とするよう、ELR2017実行委員会に提案する。
- ・研究発表要旨について、応用生態工学会会員からの発表に関しては、昨年の応用生態工学会第20回大会での取り扱いと同様に、大会後に応用生態工学会のHPで公表できるよう、ELR2017実行委員会に申し入れることとした。

④会誌投稿規程の改訂

- ・会誌投稿規程の改訂について、会誌編集委員会からの提案どおり承認された。
(改訂内容については、このニュースレターの「4. 会誌投稿規程が改訂されました」をご覧ください。)

⑤災害対応班のミッションとアクション／災害調査のプロセス

- ・会長特命鬼怒川災害調査団の任務は、本年1月28日発行の学会誌19巻2号に会長特命調査団による報文(トピックス)「平成27年9月関東・東北豪雨鬼怒川災害調査報告」が掲載されたことをもって終了した。
- ・鬼怒川災害調査の取り組みと並行して、理事会・幹事会の災害対応班において、学会としての災害に対する取り組み方針などについて検討を行ってきた。この検討に基づいて、災害対応班のミッション、アクション、災害調査のプロセス(案)が提案された。
- ・これに対して次の意見があり、災害対応班において検討することとした。
 - i) 調査に要する旅費などの費用について、予算化あるいは基金的にストックしておくことが必要。
 - ii) 災害調査のプロセス(案)では、「提言」は調査報告書取りまとめ後の最終段階において行うこととされているが、途中段階においても緊急的な提言がありうるのではないか。
 - iii) プロセス(案)においては、時間的な要素も示しておく。
 - iv) プロセス(案)では、提言内容のフォローアップも示しておくことが必要。

8 2017年度行事の予定

2017年度(平成29年度)行事の予定

4.1	2017年度(平成29年度)開始
4.9	第3回応用生態北信越技術研究会 (神通川、富山県民会館)
4.12	3学会合同大会(ELR2017名古屋)第2回実行委員会 (名古屋大学大学院環境学研究科)
4.13	第1回次期役員募集・推薦委員会 (麴町：応用生態工学会事務所)
5.1~31	国際交流委員会(メール会議), 2017年度海外学会等への派遣者決定
5.25	第72回幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
5.30	ニュースレター76号発行
6.1~30	次期(第11期)役員候補募集
6.10	<共催>応用生態工学会長野・河川生態学術研究会共同シンポジウム (信州大学繊維学部)
6.23	会誌編集委員会編集幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
6月	事務局改善ワーキンググループ会議 (麴町：応用生態工学会事務所)
6.29	第87回理事会 (TKP四ツ谷第一)
7.6	第2回次期役員募集・推薦委員会 麴町：応用生態工学会事務所
7.8	3学会合同大会(ELR2017名古屋)第3回実行委員会 (名古屋大学大学院環境学研究科)
7月	会誌「応用生態工学」(20周年記念特集号)Vol.20-1発行
7月	第73回幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
8月	ニュースレター77号発行
8月	応用生態工学会札幌 セミナー
8月	第88回理事会
9.22~25	第21回大会/ELR2017名古屋 (名古屋大学東山キャンパス)
9.22~24	大会期間中に幹事会, 理事会, 各委員会を開催 (名古屋大学東山キャンパス)
10月上旬	応用生態工学会大阪 第3回ミュージアム連携ワークショップ in 大阪
10月	応用生態工学会名古屋 シンポジウム「河川法改正20周年記念イベント」
10.21~22	応用生態工学会金沢 第16回北信越ワークショップ in 金沢
10月ごろ	応用生態工学会富山 応用生態工学テキスト勉強会
10月ごろ	<共催>応用生態工学会広島・土木学会水工学委員会環境水理部会ジョイントシンポジウム (島根大学)
12月	ニュースレター78号発行
12月	幹事会 (麴町：応用生態工学会事務所)
2月	ニュースレター79号発行
2月	理事会
2月	会誌「応用生態工学」Vol.20-2発行
2月~3月	2018年度海外学会等への派遣員の募集
3.31	2017年度(平成29年度)終了

9 事務局より

9.1 いつもながらの勤務先等の会員情報変更登録のお願い

会員情報の変更登録は、ホームページのトップ画面右上の「入退会・登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」から入力して、送信してください。

また、下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。

<https://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change>

会員情報変更のご連絡は、学会事務局のアドレス e-mail : eces-manager@ecesj.com にメールをいただくことでも可能です。

会誌のお届け、ニュースレター、その他連絡では、かなりの不達が発生しています。よろしくお願いたします。

9.2 既刊学会誌を希望する会員に頒布します（郵送料は負担してください）

学会事務局では、既刊学会誌の在庫整理を進めています。今後は一定の冊数を確保して、残りは希望者への頒布、廃棄を考えています。希望者多数の場合は、先着順です。

希望される会員は、学会事務局のアドレス e-mail : eces-manager@ecesj.com までお知らせください。申込者には、事務局から郵送料を計算してお知らせします。郵送料をいただいた後、発送します。

9.3 会員数および LEE 購読者数

2017年4月24日現在

	会員数	対前年同時期比較	LEE 購読者数	対前年同時期比較
名誉会員	8名	減 1名	1名	増減なし
会 員	872名	減 60名	85名	増減なし
学生会員	87名	減 35名	1名	増減なし
合 計	967名	減 96名	87名	増減なし
賛助会員	37法人 (54口)	増 1法人 (増 1口)		